

OCC (アウトドア・チャレンジ・キャンプ)

5月4日(月) ~ 5月6日(水)

IN 京都市立花背山の家

| | 午前 | 午後 | 夜 |
|-----|-----------|------------------|-----------|
| 1日目 | 施設までハイキング | 施設までハイキング | ナイトポイント探し |
| 2日目 | レクリエーション | 野外炊飯 レクリエーション | キャンプファイア |
| 3日目 | 思い出工作 | 施設を出発・解散式 | |

一日目：

今回のキャンプは「チャレンジ」をテーマに頑張っていきます。様々なチャレンジプログラムを通して、一人一人ができないと思っていることに挑戦してもらい、そこで新たな自分を見つけてもらいます。第一のチャレンジは、鞍馬温泉から施設まで7kmの道のりを歩きます。雨が降っていましたが、皆の意気込みは十分でした。雨が少し止んだタイミングを見計らいお弁当を食べ、足取りが重くなってきたメンバーにはお兄さんお姉さんが後ろからフォローし、自分達でどうすれば少しでも早く進むことが出来るか考えながら進んでいました。制限時間には間に合わなかったグループもありましたが、全員施設まで歩ききりました。歩き続けたのでお腹も減っているようで、夕食は何度もおかわりされていました。夜のプログラムは暗闇の中でポイントを探すチャレンジを行いました。灯りはグループごとにライト一つです。暗いところが嫌いなメンバーも頑張ってポイントを一生懸命に探されていました。入浴後は一日の振り返りをしました。頑張れたこと、頑張れなかったこと、頑張りたいこと、一人一人話し、グループで共有しました。



二日目：

午前のプログラムは「グループ対抗レクリエーション」を行いました。どの内容もグループみんなで考えを合わせ、力を合わせないとクリアできない内容ばかりです。初めは、「何故出来ないのか？」を他人に押し付け、言い方や態度が厳しく気まずい空気が流れた場面もありましたが、都度話し合い、メンバーを意識された様子が徐々に見られました。レクリエーションが終わると、今までのプログラムで貯めたポイントを用いて、野外炊飯の食材オークションを行いました。お目当ての食材を得られたグループもあれば一点のみに全ポイントをかけているグループもあり、グループの個性が色濃く出ていました。得た食材で調理を行い、どのグループも工夫をこらした食材にあったメニューを作りました。完成したメニューはどれも美味しく、余ることなく完食出来ました。野外炊飯が終わった後、みんなあそびをしました。今までの活動でグループに対して、自分に対して意識が高まっているため自然と声かけが見られました。夕食後は待ちに待ったキャンプファイアです。今までの頑張りを前面に押し出し、全力で楽しみました。恥ずかしがることなく、声も動きも全力でした。この日の夜も振り返りを行いました。1日目と違い、非常に頑張りが見られ、各自のチャレンジに向かっていただけ感じました。



三日目：

最終日の朝は忙しく、起きるとすぐに布団の片付けや、荷物の整理が待っていましたが、みんなの手際の良さから時間通りに進めることができました。朝食は「パックドッグ」です。苦戦されている初めてのメンバーに経験者のメンバーが自然と手を貸し、一緒に作られていました。焼きあがったホットドッグを口いっぱい頬張り、とても美味しそうに食べておられました。朝食後の片付けはスムーズに進み、予定より早く次のプログラムに進めることができました。最後のプログラムは「写真立て」作りです。木の枝を麻ひもでくりまわしていく内容で、一人では難しく協力して行いました。高学年は低学年の作業をサポートし、二人一組で進めました。やり方を伝える側も聞く側も必死で、お互い試行錯誤されていました。自然のものをくっつけたり、マジックで模様を描いたりして個性豊かな作品が出来てきました。昼食を挟み、引き続き工作を行いました。皆の目が真剣で、作品に非常に熱意を感じました。集中していた為、あっという間に退所の時間がやってきました。帰りのバスでは、疲れが一気に出てきたのか半分以上が眠られていました。解散式のメンバー一人一人の表情はとても勇ましく、出発前に比べてとても遅しくなっていました。



<キャンプ総括>

「アウトドア・チャレンジ・キャンプ」ということで、メンバーには様々なチャレンジをしてもらいました。普段の活動やキャンプでは経験できないプログラムを盛り込み、誰もが考え、悩み、試していたと思います。メンバーにキャンプ中いつも伝えていた言葉が「出来るか出来ないかはやってから決めよう」です。やる前から頭で考えて判断している事が多々あり、失敗を恐れ、踏み出さない様子を見かけます。今回はそれをなくし、「何事もやってみる」をスローガンに掲げプログラムを行ってきました。初めはグループやプログラムに対して様子を見ているメンバーでしたが、時間が経つにつれ、プログラムが進行していくにつれ、意識が変わってきました。これまでの様子に比べ、ステップアップしたメンバーもいれば、その一段が上がれず悩んでいるメンバーもおられました。どちらも必要な事だと思います。それが成長です。誰もがすぐにステップアップするのであれば苦勞はありません。出来ないからこそ、出来る為に努力し、頑張るのです。その『出来る』可能性を本人はもちろんのこと、周りの友達や大人も信じるのが大事です。今回のキャンプでは皆がお互いの可能性を信じたからこそキャンプ終了時には顔つきは変わり、遅しくなれたのだと思います。
(竹中 哲郎)